

令和4年度 第1回

西宮市貝類館運営委員会会議録（要約）

日 時：令和5年1月26日（木） 14時～16時

場 所：西宮浜公民館第3集会室

出席者：【委員】 近藤 高貴（委員長）、吉田 裕之（副委員長）、奥山 清市、
【事務局】文化振興課長 幸藤 京一、同係長 鳴坂 敦、同主事 青木 遥香
貝類館顧問 山西 良平、学芸員 高田 良二、学芸員 渡部 哲也
事務職員 長本 清、NPO法人こども環境活動支援協会 本村 拓
（欠席 中井 克樹、増田 修）

傍聴希望者：なし

1. 開会

文化振興課長挨拶。

2. 報告事項「令和4年度実施報告」

○事務局

- ・資料により令和4年度の実施事業、入館者数、学芸員の活動実績について報告。

各委員より下記の意見や提案があった。

○委員

- ・西宮市は市内の遠方であれば、他市の方が近いということもある。北部の方が利用しにくい場合は、出張を行うのもよいのではないか。また、市内の北部と南部の来館者数の分析をしてみるのもよい。
- ・ワークショップについて、応募者数が定員の何倍もあるが、参加者数が定員に達しないというところがある。天候の影響や工作系は材料の準備もあると思うが、定員をフルで受けたいところ。例えば、定員より少し多めに応募を当選させる等を検討してみてもよいのではないか。
- ・特別展「ダンゴムシの街」について、行事の間合いでもあるので、いつも以上に手厚く幼稚園や保育園にアピールするとよい。また、幼稚園や学校でダンゴムシの飼育方法が分からないこともあるので、えさなどの飼育方法について簡単に展示できれば、より面

白いのではないか。

- ・館外展示、とくにショッピングセンターでの展示は知ってもらうにはとても良い広報であるため、継続的な実施の検討を。

○委員

- ・アンケート結果より貝類館へのアクセス方法について、車での来館が多いことがわかる。しかし、特別展「ダンゴムシの街」のパンフレットには、アクセス情報の中に駐車場についての記載がないので、注意書き等記載してもよいのではないかと。ただし、積極的に公共交通機関を勧めるのであればこのままでも良いので、一度検討すべき。
- ・生物写真のアーカイブについて、撮りためると同時に、整理も必要。また最近では動画も注目されており、動画の記録も大切である。

○委員

- ・入館者数は、コロナ前と同じくらいに戻ってきているが、それでもマスクの着用等の感染対策はせざるを得ない。この2年間で努力して手に入れたノウハウを活かして、新しい次のやり方も考えていく必要がある。

3. 報告事項「令和5年度貝類館の運営について」

○事務局

- ・令和5年度貝類館の運営方法について報告。

各委員より下記の意見があった。

○委員

- ・ワークショップの企画業務について公募型のプロポーザルにより事業者を選定する場合、見栄えがよいだけでなく、中身のある企画であるか、気を付けることが重要。
- ・現在材料費等が高騰しているため、別のところへしわ寄せがいかないように調整の余地があった方がよい。

○委員

- ・ワークショップを楽しみにしている市民の方のためにも、スケジュールはよく考えるべき。とくに9月10月は大事な時期のため、この時期にきちんと募集ができ、参加できるように整える必要がある。

4. 審議事項「貝類館における貝類標本の収集、保管の現状と課題について」

○事務局

- ・資料により貝類館における貝類標本の収集、保管の現状と課題について説明。

各委員より下記の意見や提案があった。

○委員

- ・スクラップアンドビルドもあるが、とくに自然資料についてはなかなか捨てられない。貴重なコレクションや一般的な標本も、環境の変化の証拠として、次の世代にも残す必要がある。
- ・昆虫も含めて貝類の標本の場合は、寄贈先が限られている。今後 10 年 15 年のうちに価値のある貝が捨てられてしまうということも増えてくる。阪神間の地域やこの辺りの身近な海岸にあり、他の地域にないものもあるので、できるだけ受け入れて資料にしてほしい。そのためにも、収蔵庫の増築や追加の検討が必要である。
- ・希少なコレクションを含めて資料を守るためにも、収蔵庫の増築の重要性・必要性を計画的に現場から出していく必要がある。

○委員

- ・博物館が希薄になっている中で、自然史系の資料は捨てられたらそこで過去の証拠もなくなってしまうため、残していく方法を考えていかないといけない。
- ・現在のデータベースは貝類館のホームページへアクセスしないと見られないという独立型。これからの時代は、館同士でやりくりをして、データベースの博物館のような、そこにアクセスすればどこに何があるか分かるというシステムがあるとよい。
- ・標本をどうするかという議論はいずれ必要となるため、セーフネットのようなものを貝類館だけではなく、協会全体でちゃんと考える必要がある。そのためにも協会へ困っていることを話し、お互いに共有して解決していく道を探ることが大切。
- ・特に貝は、地球海洋酸性化が進む中でどうなるかわからない。貝は地球環境における指標生物であり非常に大切な生物。情報データベースがあることによって、いろんな海域のデータがわかる。また、実物と比べることによってわかることもあるので、情報さえあればよいということではなく、実物がある、標本があるということも重要。
- ・標本をいい状態で扱っている、有益に使っているということを市民に公表できるようにする必要もある。素晴らしい施設があるということを市民にも理解してもらい、市民が誇りとなるような博物館となる必要がある。